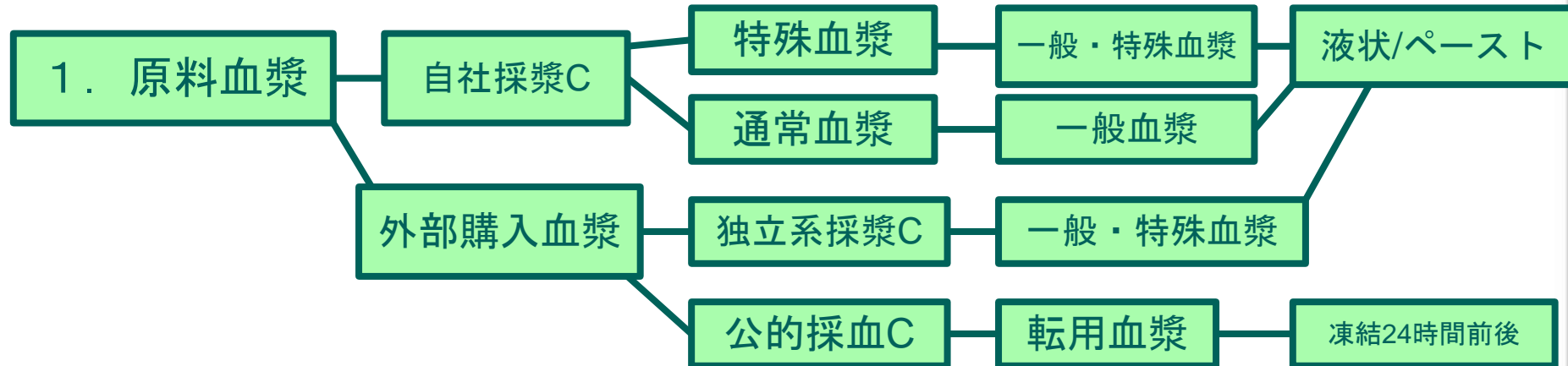


# 血漿分画製剤のコスト構造例



## 2. 分画技術によって収率が大きく異なる

例) IVIG ; 液状加熱、スルホ化、PEG、ph4、SD、イオン交換、フィルトレーション等

## 3. 連産性によってコストが異なる

連産性は各国の規制、承認条件によって異なる

- ① 開発コスト、薬価制度、疾病治療法、規制要件、
- ② 市場性（成長性、競合、販売管理費、その他）

# 米国、ドイツの民間採漿センター

|        | 採漿量/回 | ドイツ     | アメリカ                |
|--------|-------|---------|---------------------|
|        |       | 体重      |                     |
| Volume | 625ml |         | 50-80kg             |
|        | 650ml | 50-60kg |                     |
|        | 750ml | 60-79kg | 70 to 80kg          |
|        | 800ml |         | >80kg               |
|        | 850ml | >80kg   |                     |
| 職員要件   |       | 医師      | 医師助手、看護師、<br>救急救命士、 |

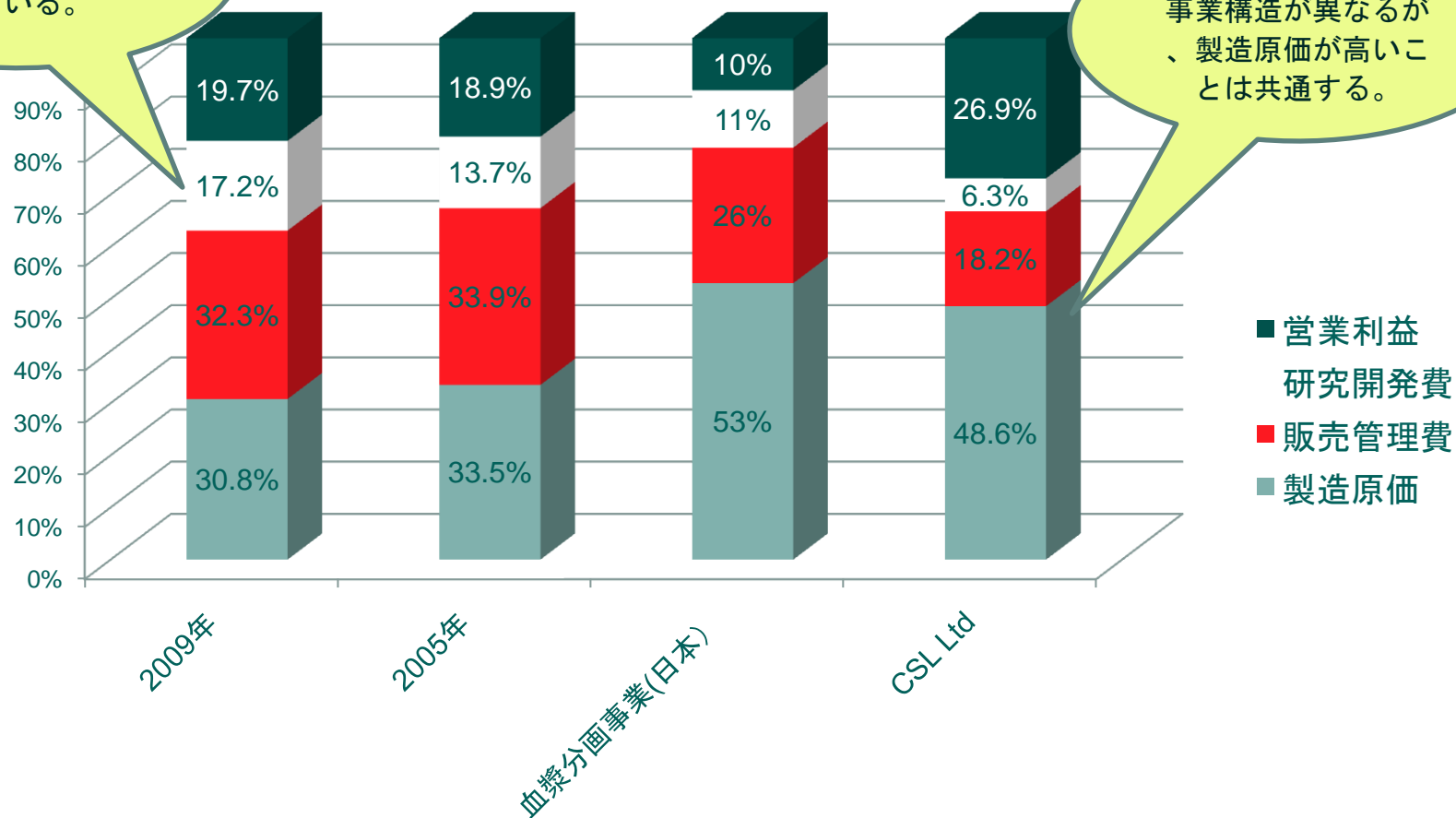
•Source:

•Germany Rill Bäk Guideline.

•USA ; From: FDA Memorandum titled "Volume Limits - Automated Collection of Source Plasma (11/4/92)"

# 血漿分画製剤事業のコスト構造

製造原価を抑えて、  
研究開発投資を強化  
している。



CSLは、日本企業と  
事業構造が異なるが  
、製造原価が高いこ  
とは共通する。

• '09年, '05年: 医薬品事業 対象: 東証一部上場26社平均

• 血漿分画事業(日本): H15年3月「血漿分画製剤の製造体制の在り方に関する検討会」資料より抜粋

• CSL Ltd: '08/'09決算報告

# 血漿分画製剤の連産品構造例

